

「ぶんせき」電子掲示板



冊子とネットワークの融合は？

本欄も早いもので、開始から2年半が過ぎようとしています。一つの目的である会員の皆様への迅速な情報伝達メディアの試みとしてパソコン通信との連携については、十分ではないにしても一応の使命を果たしつつあるかと思えます。しかし、いま一つの試みである会員の皆様との双方向メディアとしての役割に関しては、あまり機能していないのが現状です。これは、やはり冊子体とネットワークという、時間的にあまりに異なる次元にあるメディアを急速に結びつけるには、いささか無理があるのでしょうか。

例えば、「ぶんせき」編集委員会では、1993年に広島大学で開催された第42年会でアンケートを実施いたしました。その結果の一部は翌年の2号の編集委員会だよりでご紹介いたしました。しかし、アンケートを実施しても誌面に反映されないではないかとお小言を頂戴しております。実は、アンケートで寄せられましたご要望は各欄の小委員会で検討し、そのいくつかはご要望にお応えしました。しかし、以前にも本欄でご紹介しましたが、記事が掲載されるには企画から2年程度時間が経過してしまいます。昨年前半および後半から現在掲載中の入門講座は、42年会でのご要望の多かったものを基に企画したものです。入門講座やミニファイルはシリーズ企画ですので特に顕著ですが、他の欄もやはり企画から掲載までは1~2年かかっています。

一方、本欄は先にご紹介した様に記事の作成からお手元に届くまで10日~2週間とわけて迅速といえます。しかし、パソコン通信はほとんどリアルタイムですから、パソコン通信上の話題を本欄で取り上げた時点では遠い過去となってしまいます。特に掲載しています話題の一覧は整理の都合上1か月強の遅れとなってしまい索引程度の意味しかなさそうです。

さて、それでは本会の情報をパソコン通信上へ迅速に提供することを考えますと、そのタイミングが問題になってきます。ある行事が決定した場合、今までは主として本誌を通じて連絡してまい

りました。ネットワークへの情報提供はいつが良いのでしょうか。決定直後、会誌の発送時点、会誌の到着後のどの時期に決めましても、ネットワークでの案内は会員以外の方もご覧になれるということも含め判断が難しいようです。

あるいは、「ぶんせき」の掲載予定記事の案内はどうでしょうか。現在掲載中の入門講座は、開始時に全予定タイトルを紹介いたしました。他の欄も掲載予定をご案内したほうがよろしいでしょうか。

いずれにしても、多様なメディアが利用可能になったことは、様々な可能性を手に入れたと同時にその調和への配慮が必要でしょう。

本欄の今後の展開を含めご意見をぜひいただきたいと思えます。郵便、電話、FAXは事務局まで。E-mailでは、NiftyServe:GGH00112 あるいはGGH00112@niftyserve.or.jpへお願いいたします。首を長くして、お待ちしております。

「化学の広場」：本号で紹介する発言範囲

発言番号：2395 ~ 2486

期間：96/3/01 ~ 96/3/31

〔 Q & A 〕

機器分析の検量線 < 関連発言番号 > (2332), 2397, 2399, 2407, 2408, 2411, 2418, 2420, 2426, 2443

マイクロ固相抽出 (SPME) について < 関連発言番号 > 2400, 2402

アラントインのHPLC分析 < 関連発言番号 > 2401, 2404, 2405

P&Tのトラップ管について < 関連発言番号 > 2403, 2412, 2415

塩素、塩酸濃度測定 < 関連発言番号 > 2410

pH値の温度依存性について < 関連発言番号 > (2368), 2413, 2414, 2419, 2424, 2425, 2434, 2449, 2450, 2454, 2459

湿式灰化法を教えてください < 関連発言番号 > 2417, 2423, 2432

なぜ mol 濃度表示に変わったの < 関連発言番号 > 2427, 2433, 2444, 2455

亜リン酸エステル定性法 < 関連発言番号 > 2441

< 関連発言番号 > 2460, 2463, 2464, 2465, 2470, 2471, 2472, 2473, 2480, 2486

共沈時pHとCrの挙動について < 関連発言番号 > 2462, 2468, 2475, 2476, 2477, 2479, 2485

RE:容量器具の公差 < 関連発言番号 > 2474, 2478, 2482, 2483, 2484

〔民間における食品検査〕

<関連発言番号> 2409, 2416, 2421, 2461, 2466

〔インターネットで環境関連情報〕

<関連発言番号> 2422, 2429, 2430, 2436, 2438, 2439, 2445, 2446, 2447, 2448, 2451, 2452, 2456, 2457, 2458

〔タイトルサービス〕

「環境と測定技術:委員会報告」関連, 「水情報」, 「ぶんせき」
<関連発言番号> 2435, 2437, 2440, 2453, 2467

〔その他〕

「ぶんせき」というのは、本ですか? , 1996年2月のアクティブリスト, ビッツコン, 続・濃度計量証明書と分析報告書
<関連発言番号> 2395, 2396, 2398, 2428, 2431



Internet情報

4月より日本化学会のホームページが公開されました (<http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/csj/> 右上スクリーン参照)。1995年12号の本欄で日本化学会のBulletinをインターネットで配信する試みのホームページをご紹介しましたが, 今回は全く新しく構築したもので文部省学術情報センターのサーバー内に設置されたAcademic Society HomeVillage (学会村とでも言えばよいのでしょうか, 右最下段のスクリーン, <http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/>)を利用されたものです。右のスクリーンにも表示されていますように, まだ一部定期刊行物など工事中ということでした。今後の展開が楽しみです。

Academic Society HomeVillageには, 日本化学会のほか, 右に示すように日本物理学会, 電子通信学会をはじめ25学会が登録しています。当初は, 数学会だけでしたが, 急速に増えているようです。

と, ひとつごとくのように言っていただけません。分析化学会のホームページも一日も早く公開したいと思います。現在, 暫定的なホームページの作成はほぼ終了し, 公開手続きをしている段階です。

利用可能なスペースが限られておりますので, それぞれの情報は分散して設置するなどの方策が必要になると思います。また, ホームページからのリンク先などの検討も必要でしょう。ホームページに掲載する内容に関することと併せて, ぜひご意見やご要望等をお寄せいただきたいと思います。

〔「ぶんせき」編集委員会〕



